

# 町小だより

令和8年  
6月24日  
No. 709  
御免町小学校

## 修学旅行での学び

校長 土田 利康

先日、6年生と一緒に修学旅行で佐渡を訪れました。多くの子どもが初めて船に乗るということもあり、子どもたちにとって、普段の教室では得ることのできない貴重な学びの機会となりました。「トキがたくさん増えてよかった」「機械を使わないで金を掘るなんてすごい」など、佐渡の豊かな自然や歴史、独自の文化に触れながら、見て、聞いて、感じて、味わった学びは、きっと心に深く刻まれたことと思います。

佐渡の一日目は、砂金採り体験を行いました。子どもたちは夢中になって砂をすくい、何とか砂金を見付けようと一心不乱に挑戦していました。そんな中、指導者が一回の実演で砂金を見付け出す場面がありました。同じ道具を使い、同じ場所で体験していても、長年培われた知識や経験によって結果が大きく異なることを目の当たりにした瞬間でした。

二日目は、太鼓体験を行いました。世界的にも有名な鼓童のメンバーから教えていただきました。子どもたちも実際に太鼓に触れましたが、指導者が演奏を始めると、その迫力と技術の高さに空気が一変しました。また、体験の中で子どもたちに分かりやすく且つ楽しく太鼓を教える姿は、まさにプロフェッショナルでした。子どもたちはもちろん、引率した私たち教職員も圧倒され、その道を究めた方の姿勢や情熱に心を動かされました。

今回の修学旅行をとおして、学んだのは子どもたちだけではありません。私たち教職員も、多くのことを学ばせていただきました。たらい舟やイカの一夜干し体験、トキの森公園など、どこに行っても専門家がいまして。その方々は、毎日様々なお客さんの質問や要望に答えながら、自身の知識や技能に磨きをかけているのでしょう。その積み重ねがあって、人を感動させたり、新たな気付きを与えたりすることができるのだと思います。そのようなことから、学校で子どもたちに学びの楽しさや大切さを伝える立場にある私たち教職員も、学び続ける存在でありたいと改めて感じました。新しい知識を得ることはもちろん、様々な人との出会いから価値観や考え方を広げ、自分自身を成長させていくことが大切です。子どもたちは、教師が学び続ける姿から多くのことを感じ取るはずで。

このことは保護者の皆さんをはじめ、子どもを取り巻く大人に共通するのではないかと思います。昨年度末、「町小キャリア・フェスティバル」を実施しました。地域にいる「仕事人」から子どもたちが、それぞれのプロの技や仕事への思いを感じ取る機会でした。私たち大人は、子どもに背中を見せることができる存在なのです。

今回の佐渡への修学旅行では、子どもたちが多くのことを感じ、学び、成長したことをうれしく思います。日々の生活の中でも、子どもが周りの大人から新たな発見や学びを見付け、成長できる環境を家庭や地域、そして学校で整えていきたいと思います。

